

立岩

報 告 書

(昭和42年度春～45年度冬)

信州大学山岳会

女子山岳部

四年間のしめくくりとしては少少簡単すぎるかとも思われるが、ここに一応の私達の山山へのささやかな足跡をしるした。

山には男女の別などあるはずもない。しかし我我にはどうしようもないその別がある。そのちがいがどのように山に対してあらわれるのか、今もってはっきり答えられないし、向い合う心 態度は別のあろうはずがないと思っている。しかし常に山岳部の中のしかも女の子とこもりがちな状態を脱して、微力ながらも自分の目で自分の垂て足で山のはだにふれたいと思う気持がわきあがってくるのはどうしようもないものであった。

女の子の山登りが特殊ではないし、種種様様そのとらえ方はあろう。私達がやってきたことは、男子のものまねだユニークさがないなどその度反省させられる、あるいは理解に苦しむアドバイスを多勢の方方にいただいた。いったい

どうしてよいのか全っくわからなくなった時もあり、見通しの甘さに自分なぐらいや気がさしたことも少なくなかったし女子の先輩がいたらと何度弱音をはいたことか 四年を経た今 その結果は、迷い続けて一貫性のない部活動に終わってしまったかもしれない。しかし、その時その時慎重に考え苦しみながらもった一つ一つの山行は、ただ上級生に言われるとうりに漫然と行ったものよりも、何か自分の心におとしていったものがあるのではないかと思う。

一つだけ謙虚に反省しなくてはならないと思うのは、毎年
一人か二人にしても山へ心をよせる女の子が部の門をたたいた
たのにもかかわらず、その人にとって幸か不幸かそれを伸
ばしてやれなかったことである。もっと広い視野に立って
ものを見ることができたらあるいは異った結果が生れていた
にちがいない。

男子と混ってやってみても、あるいは女子だけの集りをつ
くってやるにしても、年年メンバーが替る息の短い大学山岳
部の中で、女子の存在の難しさは、これからも変ることがな
いだろうと思われる。中途半ばな考えていることは埋没に
ほかならない。

ここに私達の経てきた日々、男子部員 先輩や先生方に、
数しれない御心配をおかけしその上いっしょに考えながらき
て下さったことをほんとうに感謝いたします。残るただ一
つのお願いとして、もし今後意を同じくする女の子がいたと
したら、その人ともども考えつつ、女子だからということだ
けでその芽をつみ取ってしまうことのないよう特にこれから
山岳部を荷っていかれる部員の皆さんにはくれぐれもよろし
くと、お願いして終わりにいたします。

大学山岳部は山が好きな者同志の集りである。山に対して個人個人別々な思いを抱いているであろう。いろいろな山行があって良いと思う。ただしそれが安全性の高いものと認められる場合。

安全性を高める為、個人の個性を充分発揮させる原動力を養う為に合宿（トレーニング山行）があり、また個性を生かす山行があるのだと思う。トレーニング山行を持つためには良き指導者が存在しなければならない。個人山行の良きパートナーを得るために多くの部員がいることも望ましい。

我女子部はがむしゃらに独立してしまった。であるから基盤がしっかりしていなかった。その安全性について諸先輩方に御心配をおかけし、その上安全性をカバーするため又養うために先輩方が山行について下さったこともあった。

今までの山行をふり返ってみると、特にトレーニング山行は持たなかったが一つ一つの山行が山での生活の慣れとなったと思う。であるが向上はなく慣れだけで終わってしまったかもしれないが……

ようやく我我のみで山行が持てるようになったころ、部長は我我三人であった。毎年少ないながらも入部を希望した者があったにかかわらず彼女達を滞らせる力がなかった。これは私たちの責任であると思う。しかしその原因がはっきりとわからない……

解散に到り、今ここで女子部独立の必要性を考謙慮に考えると、精神面は何とも言えないが、肉体的に一緒に山行をすることが無理な場合もあるし、ないこともある。女子の人数が憎えないかぎりその必要性はほとんどないのではないかと

私たちがやってきたことに対して助言を与え、考えて下さった諸先輩クラブの方方深く感謝いたします。また、今後女の子が山岳部の門をたくことがあつたらどうぞ卑屈にならぬよう指導して行って下さるをお願いします。

解散にあたって

森下妙子

一気に独立してしまってから、色々と問題にぶつかった。

気ばかり焦ってしまって組織ということもあまり考えずにいた四年間でした。

あまりに小さくかたまりすぎて、男子との運^運意^意しきも欠け、組織としての責任感が年を隔てくると薄^薄らい^いてきてしまい、他からの非難は免れないと思っています。

それに後輩不足もたたりいっこうに進歩がなかった。それには今まで育ってきた自分達の考え方と、後に入ってくる人達の考え方の違いが大きくあげられると思います。そのギャップをうめるべく指導してゆけたら細^細ながらも維持してゆけたでしょう。しかし女子のみで行ってきた山行は互いの欠点 長所を見近に見られる面、自分の到^到らない点において互いにプラスになりました。

これから先女子が入部した場合には多少なりともお力をお貸し下さるようお願いします。

クラブの方方 先輩の皆様ありがとうございました。

昭和42年度春山

場所 前アルプス

期日 3月29日～4月3日

メンバー CL中田 牧田 森下 新谷 (オブザーバー)

日付 天気 行動概要

3月29日 晴 松本＝中の湯－小梨平 (TS) －田代池－ (TS)

30日 晴後曇後雨 小梨平－横尾 (避難小屋)

31日 曇 横尾－蝶ヶ岳 (TS)

4月1日 曇 強風 沈んでん

2日 快晴 (TS) －常念岳－ (TS)

3日 快晴 蝶ヶ岳－冠山－三郷村

記事 新谷さんをオブザーバーに迎えて、女子だけのはじめての山行を行った。全員が一年生という条件のもとで技術的にもあまり問題のない前アルプスを選んだ。比較的好天氣に恵まれ自分達で立案した計画のもとに、未熟ながらもフアイトをもちつてぶつかった。春山のすばらしさを満喫し、雄大なる穂高連峰を陽のおちるまで無言でみつめていた感激はメンバーのだれの胸にも深く刻まれている。

昭和43年度 新人合宿

場所 涵沢周辺

期日 4月29日～5月5日

メンバー (女子部) 牧田 森下 中田

日付 天気 行動概要

4月29日 雨後曇 松本＝島島駅－徳本峠－明神

30日 晴 明神－徳沢－横尾－B C設営

5月1日 晴 BC－涵沢(雪上訓練)－BC

2日 快晴 BC－涵沢(雪上訓練)－唐沢岳－BC

3日 晴後曇 BC－横尾本谷 右俣出合付近より
横尾尾根－南岳のコル－本谷－BC

4日 雨後晴後雷雨 沈む

5日 曇 BC－上高地＝松本

記事 二年部員といえども、基礎技術向上に主眼をおいた。入山は猪飼さんCLで女子パーティーとして快調に入山。雪上訓練は新人と一緒に、また望月さん指導のもとに女子のみでやり、雪にだいぶ慣れる。5日目強い陽ざしに悩まされながら横尾尾根を登る。雪のだいぶ残っている齒のあたりは緊張したが快調にコルよりグリセードで下りBCへ

二年部員としての役割は充分に果たせなかったが、個人個人の雪に対する感覚は向上した。

昭和43年度 残雪期

場所 針の木岳周辺

期日 5月31日～6月2日

目的 雪に慣れ、雪上技術の向上をはかる。

メンバー CL 中田 森下 宮田 清水

オブザーバー 扇能 吉安

日付 天気 行動概要

5月31日 松本⇄大町⇄扇沢⇄大沢小屋上 (TS)

6月1日 (TS) より二ピッチ目あたりで全員雪上訓練
(吉安 中田) 扇 風尾根⇄鳴沢岳⇄針の木岳
(他 全員) — (TS)
(他全員)雪上訓練

2日

6:40 m～9:00 am 雪上訓練

全員で針の木岳アタック—TS—扇沢⇄松本

記事 新人合宿以後2人の新人が入部、雪上技術の訓練と残雪の山を
楽しむという目的で、短い日数ではあったが、指導の充分できない二
年生の我々に加えて二人の先輩に参加していただき楽しい山行をもった。
しかし東面である針の木岳は早くから雪がくさりはじめ雪に慣れる程度
で雪上技術の修得はできなかった。 風尾根は200m ほど沢をつめ
最初のコルに出て、あとは稜線どうしに登る。かなりの急斜面であった
が全部キックステップで登る。 主 に出るまで二ピッチ、そこからは
雪も所所なく快適に針の木へ、最初のコルよりグリセードにて下り、雪上
上訓練を終えた皆と合流する。 3日目全隊で針の木へ岳ピークを踏
み、そのままテントを撤収して下山の途についた。

昭和43年度 夏山縦走

場所 南アルプス南部

期日 7月25日～8月2日

目的 夏山の楽しさを味わう
リーダーシップ、メンバーシップの養成

メンバー CL森下 中田 宮田 清水

日付 天気 行動概要

(偵察) (扇能 森下 宮田)

7月/5日 伊那北=信和林小屋

/6日 信和林小屋-池口岳

/7日 池口岳-伊那北

(三日間ぐづついた天気で思った程行動はできな
かった。道ははっきりしていなかったが
行かれると判断し、夏山に光岳から加加森
山へのルートをとることにする。)

(縦走)

7月25日 曇後雨 伊那北=伊那大島=塩川-樺沢-三伏峠

26日 晴 強風 三伏峠-小河内岳-高山裏

27日 霧雨強風 高山裏-荒川小屋-

28日 雨 強風 沈 (台風4号)

29日 雨 強風 沈 (台風4号)

30日 雨 強風 沈 (台風4号)

日付	天気	行動概要
7月3日	霧後小雨	荒川小屋—赤石岳—百間平 —兎岳避難小屋付近
8月1日	曇	兎岳—聖岳—西沢
2日		西沢渡—本谷口—伊那北

記事 女子部というものの方向づけをもつ山行として、

とらえ方も種種雑多で大きな意義のある合宿として意欲をもってとりくんだが、二年生で果してリーダーがつとまるかという疑問がついてまわった。台風に行動をはばまれたとはいえ慎重になりすぎたきらいがあった。ここぞという時の判断の甘さは経験の未熟ということになる。

今回はほとんど見通しがきかず、雄大な南アルプスの景観は楽しめなかったが悪条件のもとでの山行は、それ自体/つの力となるだろうと思う。

牧田が入山前にしてお家の不幸で参加できなかったことが残念であった。

場所 剣岳周辺

期日 8月18日～8月27日

メンバー 中田 森下 (OL駒井 他長野部員)

日付 天気 行動概要

8月18日 晴 長野⇒扇沢⇒黒部駅一内蔵助平

19日 晴 内蔵助平一ハシゴ谷乗越一二 (TS)

20日 ガス後曇 駒井 小林 中田 森下 P.
(TS) 一剣沢一本峰一三の窓一 (TS)

21日 曇後雨 沈

22日 ガス後晴 駒井 中田 P.

ハッ峰六峰 07エース剣 会
9:30～/11:20
A7エース申大ルート
12:55～/5:20

山田 森下 P.

ハッ峰六峰 07エースR00ルート
10:45～/3:55

23日 晴

大野 中田 P.

ハッ峰六峰 B7エース
9:15～/2:40

山田 大谷 大野 中田 小杉 P

ハッ峰上半一クレオパトラニードル
一三の窓一 (TS)

六峰の登 を終えてハッ峰の縦糸
をし、ニードルを登る。下りは
アブサイレン

森下 ケヤキ平経由で下山

日 付 天 気 行 動 概 要

8月24日 風雨 沈てん

25日 風雨 沈てん

26日 風雨 沈てん

27日 雨後曇 二 ーハシゴ谷乗越一黒部駅ー長野

記事 山登りの基礎的な力として岩登り（岩稜歩き）も私達にとって大切なものである。女子だけでは岩登りの合宿はもてないので、SNACの合宿に加わった。私達にとっては剣は本番の山登りであり、訓練を越えたものでありと思っている。つめたい岩の感触にすべてのことを忘れて、ひたすらに上だけをみつめて登るのは何ともいえぬ充実感と喜びにあふれる。

台風で沈てんの多い合宿であったが、登り終えて雪を下る足どりはいつも軽かった。欲をいうば、もう少し剣周辺を踏査したかったが、それも天候の前にはどうしようもないことである。女子といえども、何らかの方法で、このような山行をもち、安定した広い力を身につけていく必要があることを痛切に感じた。

場所 表銀座一穂高

期日 9月30日～10月3日

目的 秋山の楽しさを味わう

メンバー CL中田 森下 牧田 宮田

日付 天気 行動概要

9月30日 曇後雨 (森下 牧田) 松本⇨豊科⇨須砂渡一常念小屋

(中田 宮田) 松本⇨有明⇨中房一燕岳

10月1日 晴 (森下 牧田) 常念小屋
(中田 宮田) 燕岳 } 大穴井一東嶺尾根
一檜の岡

3日 晴 ピーク 岡一キレット一北穂一南穂一洞沢

3日 曇後雨 (森下 牧田) 洞沢一北穂東穂一白出コル一洞沢

(中田 宮田) 洞沢一五六コル一北尾根一奥穂
一白出コル一洞沢

テント撤収一横尾

4日 晴 横尾一上高地

慰霊祭の準備

一 事 夏までの窮窮とした部生活、山行を疑問に思い、また意欲を失いかけていた てもあり大義名分をかかけず、秋の山を楽しむながら歩こうと入山は二つに分かれ の岡でランデブーという気盛な山行を行った。 岩 歩きは快適で多少の重荷もあまり苦にならない。 の岡でランデブーが遅れ、月あかりの中を最後の登りにかかった時のコールの響きが忘れがたい。北穂東、北穂根は 女子だけで行くはじめての緊張度の高い岩 歩きであってが快適に登り終え 紅葉をおしみつつ下山の冷についた。

昭和43年度 冬 (スキ⇄合宿)

場所 八方尾根

期日 / 2月24日～ / 2月30日

目的 基本的なスキー技術修得

登山にスキーをとり入れる。

メンバー CL森下 中田 牧田 宮田 松田先生 (コーチ)

日付 天気 行動概要

/ 2月24日 曇 松本⇄白馬⇄細野⇄うさぎ平
一葉大ヒュッテ (TS)

/ 2月25日 曇後雪 (TS) ⇄第ノケルン (ダブルボッカ)
TS (中田風邪)

/ 2月26日 曇 スキー練習 (松田先生入山 直滑降⇄シュテムボーゲン)

スキー練習 晴晴 スキー練習
(シュテムボーゲン⇄ウーデルン
⇄荷物 / 5Kgを背負っての練習
牧田ねんぞ)

/ 2月28日 曇 スキー練習
(TS) ⇄うさぎ平

/ 2月29日 曇 半沈 午後スキー練習

/ 2月30日 晴 スキー練習

/ 2月30日 小雪 (TS) ⇄(スキー) ⇄うさぎ平⇄細野
(積雪不足の為ケーブルで下山)

昭和43年度 春山

場所 つが池一れんげ岳

目的 白馬岳アタックと山岳的スキー技術の修得
女子部においてのよりよい積雪期の合宿を考えること

期日 3月8日～3月19日

メンバー CL牧田 中田 森下 宮田 (新谷氏/3日入山)

日付 天気 行動概要

3月 8日 晴 松本⇄白馬⇄親の原一ヒヨドリ尾根下
2パーティに分かれリフトで終着駅までデポし、
スキーで下り下のイグールを作るパーティと合流

3月 9日 晴後雪 ヒヨドリ尾根下ーヒヨドリ尾根/600m地点
半雪どうを作る (所要時間約2時間)

3月/0日 晴後雪風 /600m地点ーヒヨドリ峰500m手前より
トラバースして馬の背尾根上部のコルを目指す
ー神の田んぼーつが池ヒュッテ
整地 牧田 宮田 デポ回収 中田 森下
つが池ヒュッテ付近設営 (TS)

3月/1日 晴 (BC) = 全員 デポ回収
午後 スキーを楽しむ

3月/2日 雪 台湾坊頭のため沈てん 新谷氏入山せず

3月/3日 雪 半沈 新谷氏午後1時ごろ入山
午後スキー練習

日付	天気	行動概要
3月/4日	曇	BC=天原=乗鞍岳(テボ)
3月/5日	晴時々曇	つが池にてスキー練習 BC-天狗原下-(スキー)-つが池(スキー練習)-BC
3月/6日	吹雪	BC-天狗原-大池(雪どう)
3月/7日	雪	沈てん
3月/8日	晴 強風	雪どう=大池=小蓮華 -天狗原-BC
3月/9日	晴後曇	BC-神の田んぼ-リフト終着点 つがの森ゲレンデにて中田転倒、骨折 つがの森ヒュッテにて応急手当。全員親の原までリフトで下る。 親の原=白馬駅=松本

記事 / 2月/日森下 牧田は大池までてい察に行き、雪どうの掘れる場所などを見て決めた。

スキーと登山をミックスし、リフトのかかる尾根の隣の尾根をエチラオッチラシールをつけて登り、雪どうを掘り、新雪を滑るというバラエ

ティーに富んだ山行であった。スキーの上手な新谷氏にコーチをお願いし、大池では本格的な雪どうの掘り方を教えて頂いた。目指す白馬岳は強風とアイゼンワークの未熟などからアタックはピークを目前にして断念した。下山。重い荷を背負いスキーで下るのは無理のようであった。

転倒脱出思わぬ時間がかかり焦りを生じ、中田がつがの森ゲレンデで転倒右足を骨折。事故のあった地点が山荘直上であったのが不幸中の幸であった。この合宿からスキーをとり入れようとする気持が薄らいてしまったのは残念である。

昭和44年度 新人歓迎山行

場所 乗くら岳
目的 新人に部を知ってもらう
期日 5月初旬
メンバー OL牧田 森下 宮田 原
日付 天気 行動概要
5月×日 晴 松本⇄新島島⇄鈴らん⇄信大ヒュッテ
後曇 一位ヶ原⇄(スキー)⇄信大ヒュッテ
5月×日 晴 ヒュッテ⇄冷泉⇄一位ヶ原⇄(雪上訓練)
一肩ノ小屋⇄乗くら岳⇄冷泉小屋⇄
(スキー)⇄信大ヒュッテ(コンパ)
5月×日 晴 ヒュッテにて女子部紹介 =松本

記事

新人を交えて、スキーを楽しみ、部の紹介をするつもりで行なった山行
行なった山行であるが、スキーには苦しめられ新人はあまりの
すごさにびっくりしていた様子だった。

乗くらのピークハントは良い天気で楽しかったのだが……

昭和44年度 新人合宿

場所 横尾 から沢周辺

期日 6月1日～6月8日

メンバー PL牧田 森下 宮田 大沢 (CL大谷 他SAC会員)

日付	天気	行動概要
6月1日	晴	松本＝島島－岩魚留－徳本峠－明神
6月2日		明神－徳沢－横尾－(TS)
6月3日	晴	(TS) ⇄ から沢 (雪上訓練)
6月4日	晴	(TS) －横尾小屋 (大沢脱走 牧田 森下 説得得 一応連れ返る。) (TS) ⇄ から沢 (宮田 雪上訓練)
6月5日	晴	(TS) －チヨウケ岳－長壁山－徳沢－(TS)
6月6日	雨	沈でん
6月7日	曇後吹雪	(TS) －やり沢 吹雪のため途中で引返す
6月8日	晴	(TS) －上高地＝松本

記事

新人の大沢が4日朝行方不明になり捜したところ横尾小屋に居り事情を聞いた。「自分の考えていた登山と今合宿とはあまりにかけ離れていていやになった。」改めて女子部の新人合宿について考えさせられた。

昭和44年度 夏山

場所 飯豊連峰

目的 登山の基礎を見直す
精神力を養う

期日 7月/1日~7月/7日

メンバー L牧田 宮田

日付	天気	行動概要
7月/1日	晴	長野=山都=一ノ木=川入=センノウ沢出合
7月/2日	雨後曇 後雨強風	一横峰=地藏山=剣ヶ峰 一三国峠=切合小屋 (TS)
7月/3日	曇 強風	(TS) 一草履つか=飯豊本山=御西岳=大日岳 宮田転倒ねんざ 御西岳でテントを張る (TS)
7月/4日	晴	宮田休養 牧田 (TS) 一天ぐの庭=え帽子岳=梅花皮小屋 (テボ) 一 (TS)
7月/5日	晴	(TS) 一梅花皮小屋=北また岳=門内小屋 (TS)
7月/6日	晴	(TS) 一扇ノ地紙=地神=頼母本 (TS)=大石 =針立峰=えぶり連峰
7月/7日	晴	(TS) 一地神山=丸森峰=飯豊山荘=長者原=長野

記事 計画では朝日連峰まで縦走する予定であったが、宮田が御西岳付近でねんざした為、飯豊だけでもとがんばってのっそりのっそり歩いて来た。

東北の山山はゆったりしておだやかで素晴らしい。時期が早かったので雪解け水が十分に得られなかった。いつか再び行ってみたい山だ。

昭和44年度 冬山

場所 八ヶ岳

目的 冬山技術の修得

期日 /月3日～/月/3日

メンバー CI 牧田 森下 宮田

日付 天気 行動概要

/月3日 晴 松本⇄ち野⇄美濃戸口 (テポ)

一行者小屋 (TS)

/月4日 ガス 雪 (TS) ⇄美濃戸口 (牧田 森下 テポ回収)

/月5日 ガス 雪 沈てん

/月6日 曇り 晴 (TS) - アミダ・赤岳コル⇄アミダ岳
↳ 赤岳 - (TS)

/月7日 ガス (TS) ⇄ 赤岳鉱泉 ⇄ 大同心下

硫黄岳へテポする予定だったが視界が
さかずルートを誤り一日ムダをしてしまった。

/月8日 晴 (TS) ⇄ 硫黄岳石室 (テポ)

/月9日 ガス (TS) - 硫黄岳 - 石室 (TS)

/月/0日 晴 (TS) = 横岳 = 赤岳

/月//日 晴強風 (TS) - 硫黄岳 - 赤岳鉱泉 - 美濃戸山荘
= ち野

記事 //月下旬牧田赤岳てい寮。/2月上旬森下赤岳鉱泉付近
てい寮。厳冬期の山行経験はは牧田のみ、よって冬山技術の修得
に主眼をおいた。雪山で自分達だけの合宿は初めてなので慎重
に計画をたて、生活技術の訓練をする意味でも日数を多くとった。

てい寮をしていながらもルートを誤るとは大きなミス。

踏跡に惑わされない様注意しなければいけない。その他は

3寮に前夜泊りであった。山が低く、手軽に行ける山である。

昭和44年度 春山

場所 アブキ周辺

目的 ラッセルワーク・ルートファインディング

期日 3月21日～3月28日

メンバー CL森下 中田 牧田

日付	天気	行動概要
3月21日	曇	鬼無里→アブキ
3月22日	曇	アブキ＝途中のデポ回収
3月23日	曇 風強	沈てん
3月24日	曇後雪	アブキ＝東山(奥西山ジャンクションまで)
3月25日	雪	アブキ→アブキ尾根/600m付近(ヒバーク)
3月26日	晴	(ヒバークS)→P2→アブキ
3月27日		沈てん
3月28日	曇	アブキ→長野

記事 あまり人の入らないところで静かな山行をしようとアブキ周辺を選んだが、資料の少いことなどで研究不足の感があり、また健こう管理の面などで問題があり、厳しさの足りない山行であった。

久しぶりに古参三人が顔を合わせた山行でもあり、もっと主体的でなくてはならない。アブキ周辺はいい。アブキの上から下に下った氷柱氷の柱 東山の黒黒とした東面 このような所こそ我々に山の楽しさを味わせてくれるところではないでしょうか。

昭和45年度 新人合宿

場所 横尾 から沢周辺

期日 5月25日～6月7日

メンバー 中田 牧田 森下 野田 (CL井関 他SAC会員)

日付	天気	行動概要
5月25日	晴	松本＝島島谷口－徳本峠－明神
5月26日	晴	明神－横尾 (TS)
5月27日	晴	(TS) ⇄ から沢 (雪上訓練)
5月28日	曇	(TS) ーから沢 (雪上訓練) ー北穂南りょう ー北穂高岳ー (TS)
5月29日	曇	(中田 野田) (TS) ーチョウケ岳ー長壁山 ー徳沢ー横尾ー (TS) (牧田 森下) (TS) ーから沢ー (雪上訓練) ー唐沢岳ー (TS)
5月30日	晴	(中田 牧田) (TS) ー横尾本谷ー南岳 ーやりヶ岳ーやり沢ー (TS) (森下 野田) 下山
5月31日	晴	沈てん お墓参り 中田 奥又白へ散歩
6月1日	雨	(TS) ー上高地＝松本

昭和45年度 夏山縦走

場所針 針ノ木より裏銀ーやりヶ岳

目的 夏山を楽しむ

期日 8月3日～8月9日

メンバー 中田 森下 牧田(サポート)

日付 天気 行動概要

8月3日 曇 長野＝大町

8月4日 曇後雨 大町＝扇沢ー針ノ木峠(ここまで牧田サポート)

8月5日 晴 針ノ木峠ー北くずー船くぼ

8月6日 曇 船くぼー赤沢ーえ帽子

8月7日 雨後曇 沈てん

8月8日 晴 え帽子ー野口五郎ー水晶ー祖父岳ー雲の平

8月9日 晴 雲の平ー三またれん華ー双六ーやりヶ岳ー上高地

記述 針ノ木峠でアッチャンと別れて快調に裏銀を歩く。人は多いが前アルプスのようなせわしさがなくてよい。下級生のいない山行は楽な割には、はりあいのないものである。

晴天に恵まれた後半は最後の夏を楽しむのに充分であった。四方に目を向ければ過去の踏跡がしっかり残っている。雲の平の湖沼もまたいつ見れることか……

昭和45年度 冬山 (SNAC参加 中田)

場所 中山一つぱくろ

期日 /2月26日~ /月 /日

メンバー 中田 他SNAC部員

日付	天気	行動概要
/2月26日	曇	松本=新島島=沢んど一上高地一徳沢
/2月27日	晴	徳沢一一のまた
/2月28日	曇強風	一のまた一二のまた一中山最低コル (7時)
/2月29日	曇強風	(TS) 一 大天井 荷上げ
/2月30日	晴強風	(TS) 一 大天井 一 大天井
/2月31日	雪	沈てん
/月 /日	晴	(中田) 大天井一つぱくろ一中ぶさ (SNAC. P) 大天井一東かま一やりヶ岳へ

記事 どうしても冬に山へ入りたいたと思ったが、女子のパートナーがいず迷惑ではあったと思うが、SNACに参加させていただいた。

山をゆっくり見るとともに一年生のフアイトに頼もしいものをみる。女の子もいたらと腹雑な気持ちで思う。四年間のわが道をふり返って、様々な思いが去来してならないのだ。

四年目にして初日の出をみたことは幸せだなあ……

園 人 山 行 行

鹿 島

昭和44年/0月/2日~10月/4日

中 田

- 10/12 長野一大谷原
- 10/13 大谷原一高千穂平一冷池
- 10/14 冷池⇄鹿島
Lじいヶ岳一穂池一扇沢

妙高・火打

昭和45日5月2日~5月5日

森下 中 田

- 5/2 長野=田口
- 5/3 田口=池ノ平一妙高
- 5/4 妙高⇄火打
- 5/5 妙高一つばめ温泉一赤倉

五りゅう一鹿島

昭和45年8月/日~8月3日

中 田 部 外 者 一 人

- 8/1 松本⇄四ツ谷一八方一五りゅう小屋
- 8/2 五りゅう小屋一キレット小屋
- 8/3 キレット小屋一鹿島一扇沢

八ヶ岳

昭和45年/0月7日~10月9日

大 谷 中 田

- 10/7 長野=美しの森
- 10/8 美しの森一赤岳一硫黄一オーレン小屋
- 10/9 オーレン小屋一天ヶ一白かば湖

その他の小旅行は省略